

学科 ライフスタイル学科	氏名	平岩 暁子																																																	
<p>家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。</p> <p>イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。</p>																																																			
1 教育の責任																																																			
<p>家政学部家政学専攻ライフスタイル学科において、2026年3月時点で8年間にわたり教育・研究に従事している。教育の目的は、これからの時代に求められるライフスタイルを衣・食・住の観点から提案・支援できる、豊かで自律した生活者を育成するとともに、地域活性化に貢献できる人材の養成にある。あわせて、中学校・高等学校の家庭科教員養成にも取り組んでいる。2025年度は、シラバス添付資料1に示す11科目を担当した。主に被服分野に関する講義および実習を中心に授業を行っている。</p> <p>正課授業に加え、教員採用二次試験対策としての実技指導、オープンキャンパスやスプリングカレッジにおけるミニ授業、連携高校への出張授業、ならびに正課外活動の指導にも積極的に関わっている。</p> <p>また校務面では、2024年度よりライフスタイル学科長を務めている。あわせて、合同運営委員、FD委員、カリキュラム委員、学生募集委員、内部質保証委員、学びの泉開発委員、ならびに三つのポリシー策定委員を兼務し、学科および大学運営に広く携わっている。</p>																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>開講期</th> <th>受講者数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッション造形実習Ⅰ</td> <td>1年後期(2025)</td> <td>40</td> <td>必修・専門・教職</td> </tr> <tr> <td>ファッション造形実習Ⅱ</td> <td>3年前期(2025)</td> <td>21</td> <td>選択・専門</td> </tr> <tr> <td>衣生活論</td> <td>1年前期(2025)</td> <td>39</td> <td>必修・専門・教職</td> </tr> <tr> <td>服飾文化論</td> <td>2年前期(2025)</td> <td>39</td> <td>必修・専門</td> </tr> <tr> <td>卒業研究</td> <td>4年通年(2025)</td> <td>4</td> <td>必修・専門</td> </tr> <tr> <td>スタジオ入門</td> <td>2年後期(2025)</td> <td>35</td> <td>必修・専門・オムバス</td> </tr> <tr> <td>生活スタジオ入門</td> <td>1年後期(2025)</td> <td>34</td> <td>必修・専門・オムバス</td> </tr> <tr> <td>スタジオ A (空間・情報デザイン)</td> <td>3年通年(2025)</td> <td>8</td> <td>選択必修・専門・オムバス</td> </tr> <tr> <td>ライフスタイル学基礎講座</td> <td>1年前期(2025)</td> <td>34</td> <td>必修・専門・オムバス</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成特別講座Ⅰ</td> <td>1年通年(2025)</td> <td>34</td> <td>必修・専門・オムバス</td> </tr> <tr> <td>教育実習指導</td> <td>4年前期(2025)</td> <td>12</td> <td>教職必修・自由・オムバス</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	開講期	受講者数	備考	ファッション造形実習Ⅰ	1年後期(2025)	40	必修・専門・教職	ファッション造形実習Ⅱ	3年前期(2025)	21	選択・専門	衣生活論	1年前期(2025)	39	必修・専門・教職	服飾文化論	2年前期(2025)	39	必修・専門	卒業研究	4年通年(2025)	4	必修・専門	スタジオ入門	2年後期(2025)	35	必修・専門・オムバス	生活スタジオ入門	1年後期(2025)	34	必修・専門・オムバス	スタジオ A (空間・情報デザイン)	3年通年(2025)	8	選択必修・専門・オムバス	ライフスタイル学基礎講座	1年前期(2025)	34	必修・専門・オムバス	キャリア形成特別講座Ⅰ	1年通年(2025)	34	必修・専門・オムバス	教育実習指導	4年前期(2025)	12	教職必修・自由・オムバス
科目名	開講期	受講者数	備考																																																
ファッション造形実習Ⅰ	1年後期(2025)	40	必修・専門・教職																																																
ファッション造形実習Ⅱ	3年前期(2025)	21	選択・専門																																																
衣生活論	1年前期(2025)	39	必修・専門・教職																																																
服飾文化論	2年前期(2025)	39	必修・専門																																																
卒業研究	4年通年(2025)	4	必修・専門																																																
スタジオ入門	2年後期(2025)	35	必修・専門・オムバス																																																
生活スタジオ入門	1年後期(2025)	34	必修・専門・オムバス																																																
スタジオ A (空間・情報デザイン)	3年通年(2025)	8	選択必修・専門・オムバス																																																
ライフスタイル学基礎講座	1年前期(2025)	34	必修・専門・オムバス																																																
キャリア形成特別講座Ⅰ	1年通年(2025)	34	必修・専門・オムバス																																																
教育実習指導	4年前期(2025)	12	教職必修・自由・オムバス																																																

2 教育の理念と目的

被服は人の身体に最も近い存在であり、人間が生活していくうえで不可欠な要素である。本教育では、被服を単なる物として捉えるのではなく、環境・人間・被服の相互関係や、自らの生活とのつながりを意識して理解できる視点を重視している。具体的には、高齢者や障がい者など身体機能が低下した人々の被服について考察することを通して、人の尊厳への理解を深め、着用者の立場に立って衣生活を提案・支援できる人材の育成を理念としている。

また、安価な既製服が普及している現状を踏まえ、それらがどのような場所でどのように生産されているのか、さらに水やエネルギーを大量に消費するなど環境負荷の高い産業であることを理解させる。そのうえで、衣服の入手から使用、廃棄に至るまでの一連の過程を、生活者として責任をもって考え、行動できる力を養うことを目指している。

さらに、日常生活に必要な基本的裁縫技術を確実に習得させることにも重点を置いている。生活者として自立するための実践的技術を身につけるとともに、創造することの文化的な喜びを実感し、それを豊かな生活へと結びつけていくことを教育の目的としている。

3 教育方法

「服飾文化論」「衣生活論」などの講義科目では、理解を知識の習得にとどめず、体感を伴う学びへと発展させるため、積極的にグループワークを導入している。学生同士が意見交換を行い、協働して課題に取り組む時間を設けることで、多角的な視点の獲得を促している。合わせて、授業では PCR シートを活用し、予習・復習の習慣化と授業内容の整理を図っている。復習課題は、学生自身の衣生活と関連づけて考察できる内容とし、日常の中から課題や気づきを見出せるよう工夫している。これらのシートは毎回回収し、翌週にフィードバックをして返却することで、学修の定着を促している（添付資料 2・3）。

「ファッション造形実習」では、学生の創造性を重視し、可能な限りオリジナリティのあるデザインを認めることで、制作の楽しさと主体的な学びを高めている（添付資料 4）。1 年次の「ファッション造形実習Ⅰ」では、文化式原型を用いた基本的なシャツのパターン作成法を習得したうえで、ゆとりや丈の調整は各自の発想に委ねている。また、制作過程で生じるハギレを活用した小物制作を授業内に取り入れ、「ものを無駄にしない」という本学創立者・寺部だい先生の教えを継承し、その大切さも体験的に学ばせている。

3 年次の「ファッション造形実習Ⅱ」では、裏地付きジャケットを自由なデザインで製作させている。学生ごとに異なるデザインに対応するため、個別指導を重視し、シーチングによる仮縫いや試着補正を通して、体の特徴に合わせた着心地の良さも追及している。特に、パターン制作や修正、裁断の各段階では丁寧な確認を徹底している。また、進度の遅れを防ぐため、主体性・計画力・実行力を意識させながら指導を行い、必要に応じて授業時間外の支援も積極的に行っている。

体験型授業「スタジオ A」では、学生が自ら課題を発見し、計画的に企画・実行しながら解決に導く力の育成を目指している。そのため、教員と学生という関係にとどまらず、共同運営メンバーの一員という関係性を意識しながら助言・サポートにつとめている。学生の主体性を大切に、誘導しすぎない指導を心掛けている。

4 授業改善の活動

ICT の活用により、特に実習科目において授業改善を進めている。具体的には、写真を用いた段階的な作業工程の説明をスライド化し、Google Classroom に掲載することで、全体説明後も学生が自身の進度に応じて内容を繰り返し確認しながら作業を進められる環境を整えている。この仕組みは、授業時間内にとどまらず、自宅や授業時間外での学修にも活用されている。教材については、毎年学生の理解度を踏まえて内容を見直し、継続的な修正・改善を行っている。今後は動画教材も取り入れることで、より直感的で理解しやすい指導を目指しており、特に手縫いの各種技法については、実演動画による提示を検討している。

また、毎年 FD 研修会に参加し、教育力の向上に努めている。2025 年度には「授業における NotebookLM の活用事例・実践例の紹介」に関する研修を受講し、AI の可能性と活用上の留意点について理解を深めた。今後は、これらの知見を踏まえつつ、自らも継続的に学びながら AI の教育活用の可能性を探り、授業改善へとつなげていく。

5 学生の授業評価

2025年度の授業評価は、全体としては概ね良好な結果であったが、「予習・復習の時間」が十分に確保されていない点が課題として明らかとなった（添付資料4）。今後は、学生が主体的に予習・復習に取り組めるよう、具体的な働きかけや仕組みづくりを強化する必要がある。

一方で、「教員は質問や相談ができるよう配慮していた」「教員は学生の反応を確かめながら授業をしていた」といった項目については高い評価を得ており、これまで実践してきた教育方法の有効性が、数値として示された結果であると考えられる。

ただし、「どちらともいえない」とする回答も一定数見られることから、今後は各授業において説明の明確さや進行の工夫に一層留意し、理解しやすい授業運営を徹底していく。その結果として、学生の納得度を高め、評価のさらなる向上につなげていきたい。

6 学生の学修成果

1年次後期の「ファッション造形実習Ⅰ」では、創立者・寺部だい先生の教育方針を継承し、「布を無駄なく使い切る」ことを軸として実習を行っている。具体的には、シャツ製作における裁断段階から無駄の少ない型紙配置を学び、さらに余ったハギレを活用してポーチや小型バッグ、シュシュなどの小物を制作させている。これにより、学生は基礎的な裁縫技術および専門的知識・技能を応用しながら、多様な作品を生み出す経験を積んでいる。この取り組みを通して、学生は小さなハギレからも新たな価値を創出できることを実感し、素材や物を大切にする意識を育んでいる。また、エシカル消費やSDGsへの関心を高め、日常生活にそれらの視点を取り入れようとする態度の形成にもつながっている。

こうした学びは体験型授業「スタジオ」にも発展している。2019年には「Re ぬう〜の。」が、ハギレの可能性に着目し、布小物の制作・販売やワークショップを通して「ものを無駄にしない」価値観の発信を行い、その成果は学びの泉グランプリ大会において最優秀賞を受賞した。

2022年には「ひまわり結婚式」が、福島の震災復興の象徴であるひまわりを育て、その花卉で染色したドレスを制作し、現地へ寄贈した。さらに、ドレス制作や実習で生じたハギレを活用した小物の販売と寄付活動も行い、その成果は学びの泉グランプリ大会において大学・短大総合優勝にあたる「創立110周年特別賞」として評価された。

2023年度には「リ・トレゾール」が、「使われなくなった和服を再び宝物に」をテーマに、和服のリメイクによるファッションショーを実施するとともに、ハギレを活用した小物制作・販売やワークショップを展開した。視覚的な発信と来場者との交流を通して、和服の新たな価値とファッションにおける環境問題を広く伝え、この活動も学びの泉グランプリ大会で最優秀賞を受賞した。

2024年度には「ひごろも。」が、「着物を何気ない日常へ」をテーマに、日常生活における新たな着物の活用方法を提案した。ファッションショーや小物制作・販売、ワークショップなど多角的な取り組みを通して着物の魅力を発信するとともに、名古屋市消費生活フェアや愛知県主催のエシカル関連事業など、学外の産学連携活動にも積極的に参加した。この活動は学びの泉グランプリ大会において奨励賞を受賞している。

2025年度には「E.T.」が、岡崎市の中山間地域活性化を目的に、恵田学区地域活性化委員会「久楽志隊」と連携し、地域活動に積極的に参加した。イベント参加時のユニフォームとして、Tシャツの胸元にハギレを用いた「E.T.」の文字のパッチワークを施し、ライフスタイル学科の特色を活かしたデザインを、メンバー各自が制作した。

正課外活動では、一宮地場産業ファッションデザインセンター主催の「翔工房」には2021年から2023年まで継続して採択・参加している。毛織物の専門家との協働により、素材となる布地の制作から衣装デザイン・製作までを一貫して行い、実習で培った知識と技術を実践的に活用する機会となっている（添付資料5）。また、2025年にはカセラサラファッションコンテスト一般制作部門において中日新聞社賞を受賞し、手作業によるものづくりの価値が高く評価された。

これら一連の取り組みは、1年次からの学修の積み重ねによって実現されたものであり、「布を無駄にしない」という教育の軸が継続的に発展し、学内外へと広がっている成果であるといえる。

7 授業科目に関連した教材開発

実習科目では、独自に作成したテキストを基盤教材として使用している。これに加え、図や写真を用いて制作工程を段階的に示したスライドを作成し、毎回 Google Classroom に掲載している。これにより、授業中だけでなく予習・復習の時間においても、学生が自身の進度に応じて繰り返し内容を確認できる環境を整えている。

また、過去の資料にも遡って参照できるため、基礎的な知識・技能を適宜確認しながら、より高度な専門知識・技能の習得へと段階的につなげることが可能となっている。

8 指導力向上のための取り組み

日本家政学会、日本衣服学会、繊維製品消費科学会、家庭科教育学会などの所属学会において、研究発表を行うとともに、研究会では講師も務めている（添付資料 7）。また、各学会にて得られた知見を学生へのフィードバックや新たな研究テーマの探究に活かしている。

昨今、オンライン開催の講演会やセミナーも増加していることから、より積極的に参加し、継続的な知見の更新と視野の拡大を図る方針である。特に、ファッションと AI に関する講習会・研修会等には積極的に参加し情報を得たい。

さらに、繊維製品品質管理士（TES）として、アパレル業界の最新動向を把握するとともに、業界関係者とのネットワーク構築にも努めている（添付資料 8）。

9 今後の目標

短期的な目標は、学生の将来の進路を見据え、被服に関する知識と技術の確実な習得を図ることである。そのうえで、これらの学びが自らの生活とどのように結びつき、社会の中でどのように活用できるのかについて、多くの気づきを得られる授業へと継続的に改善していく。

長期的な目標は、高齢者や障がい者を対象としたファッションショーなどに学生とともに積極的に参加し、衣装製作にとどまらず着用者との交流の機会を設けることで、被服が人に与える影響や価値を実感できる学びの場を創出することである。

さらに、受講生やゼミ生との関係を卒業後も継続し、本学での学びや体験が社会でどのように活かされているかを把握するとともに、その成果を在学生へ還元していく。こうした継続的な観察と相互のフィードバックを通して、双方にとって有益な関係の構築を目指す。

10 添付資料

添付資料 1：シラバス、添付資料 2、3：衣生活論・服飾文化論 PCR シート、添付資料 4：2025 年度授業評価アンケート結果およびリフレクションペーパー、添付資料 5：（公財）一宮地場産業ファッションデザインセンター主催「翔工房」2021～2023 冊子、添付資料 6：ファッション造形実習 I・II テキスト・教材、添付資料 7：研究発表要旨、投稿論文、添付資料 8：学会、TES 会参加一覧